

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

*** セイロン日食(1955年6月20日)記録写真のデジタルアーカイブ**

2008年10月20日、表記日食観測隊員であった清水実氏が逝去された。氏は東京天文台分光部で、日食観測などで活躍の後、1960年開所した岡山天体物理観測所開設、立ち上げ、運営に定年までご活躍だった方であり、筆者たち天文台の技術系職員の多くを育てた恩人であった。氏の逝去を聞き、お悔やみに伺った席で氏が観測に出かけられたスワロフ日食とセイロン日食のアルバムを見せていただき、これらの記録写真をアーカイブ室で保存すべくアルバムをお借りしてきた。今回はそのうちセイロン日食の記録写真のアーカイブの報告である。セイロン日食は天候に恵まれなかったようで、清水氏の写真のなかに皆既の写真はない。写真1は準備状況を伝える新聞記事である。この記事から隊長は古畑元台長であったことが分かる。



写真1 日食観測の準備状況を伝える新聞記事

写真2は、1955年6月17日付の朝日新聞の観測の準備の取材記事である。

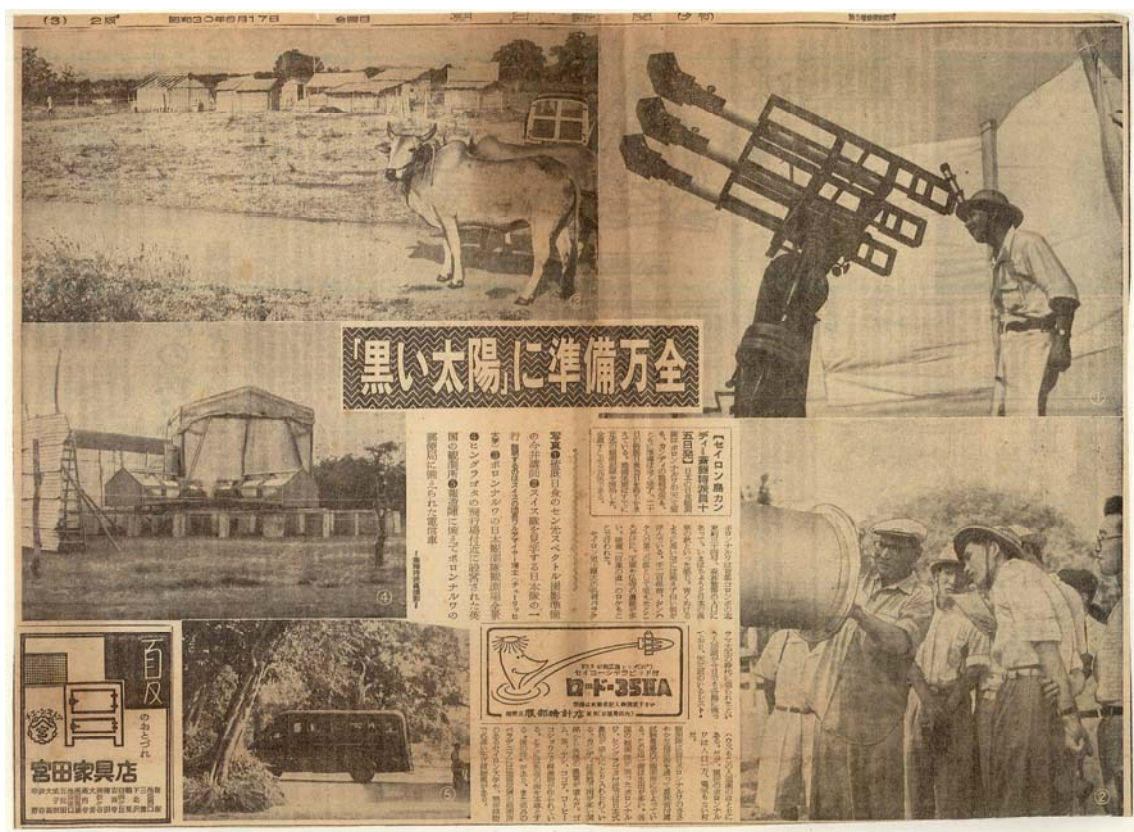


写真2 万全の準備を伝える新聞記事

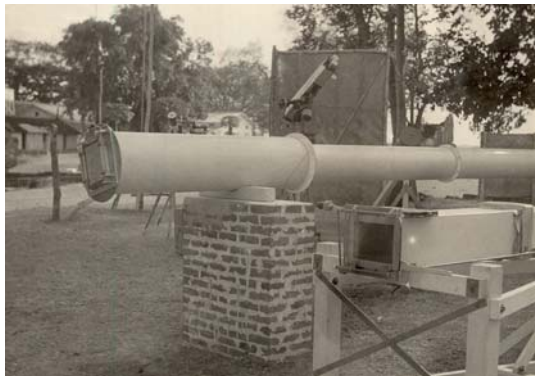
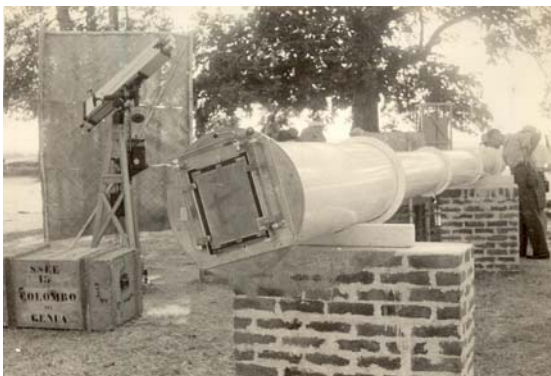
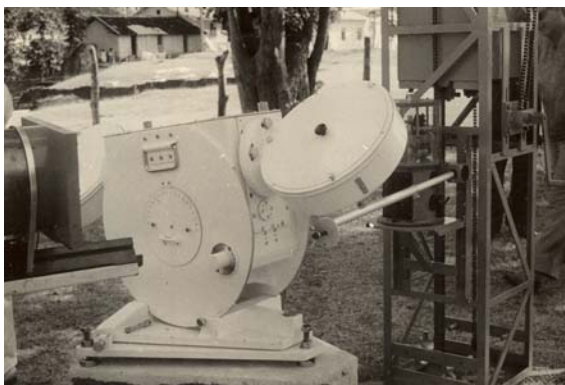
準備が万全でも、日食観測は天候という人間の力ではどうしようもない自然現象で観測できない事もある厳しいものである。現在の国立天文台の特別公開でも天体観望が、天気が悪くできないが続いている。

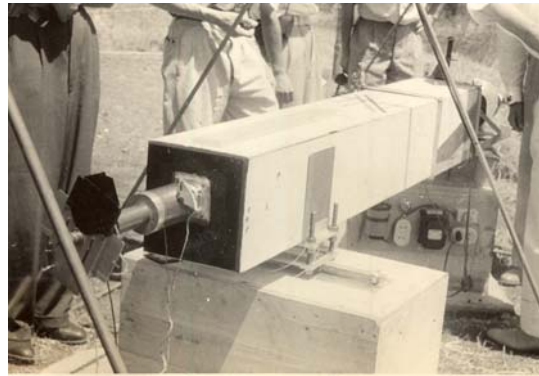
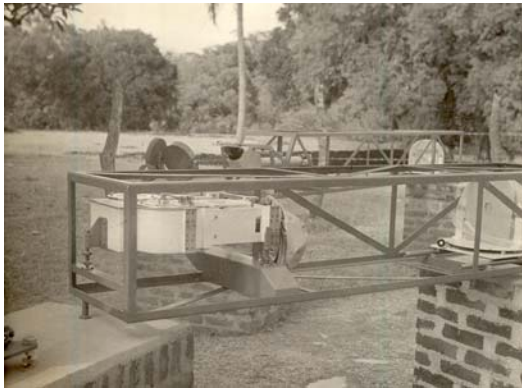
現地での観測器械の整備の状況が写真に撮られている。写真3はその一部である。



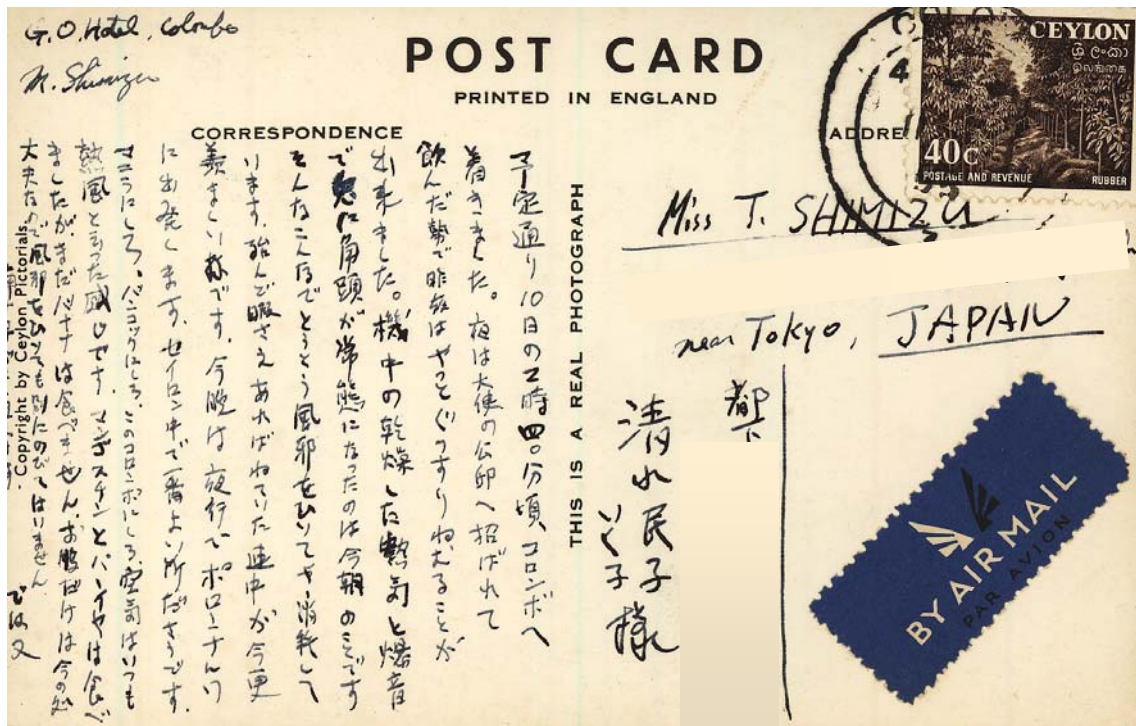
写真3 準備を進める観測器械

その他、観測器械の準備状況の写真である。





次の写真は、観測隊員清水実氏が家族に宛てた便りである。



上記のような私信は、このような新聞に載せるべきでないという意見が聞こえてくるようであるが、既に故人であるし、日食観測に出かけた観測隊員の様子を伝えるものとして収録させていただいた。このような観測隊がまだ航空路などが整備されていなかった頃の苦勞、そして現地の公館の便宜を受けるなどの様子がよく分かる。

日食観測は成功しなかったようであるが、観測準備の様子を伝える写真はたくさんあるので、次に紹介しておく。

